



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」

変動地形・リニアメントの凡例

— Bランク
— Cランク
— Dランク

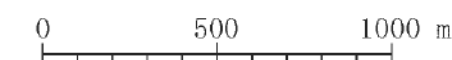
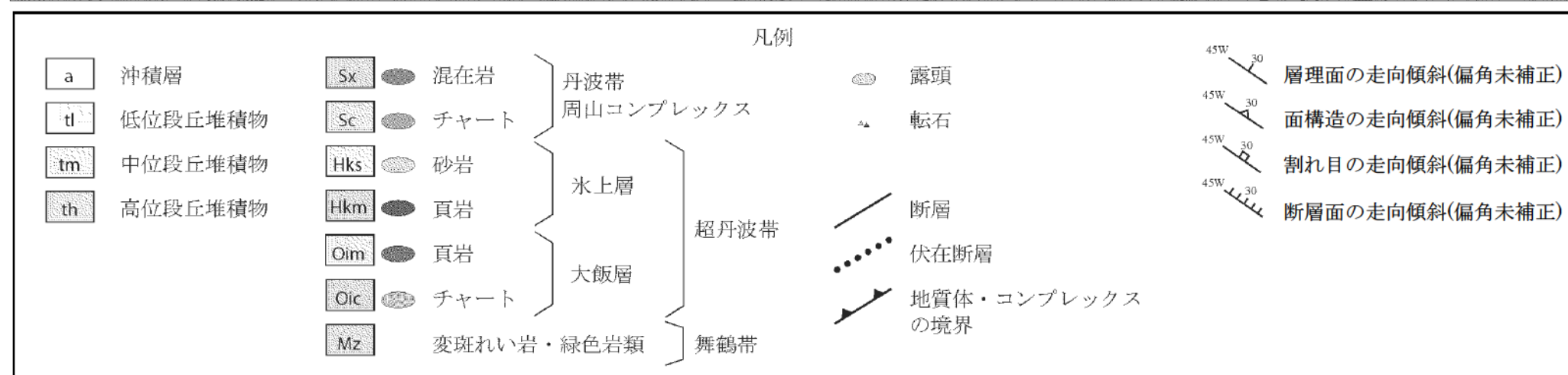
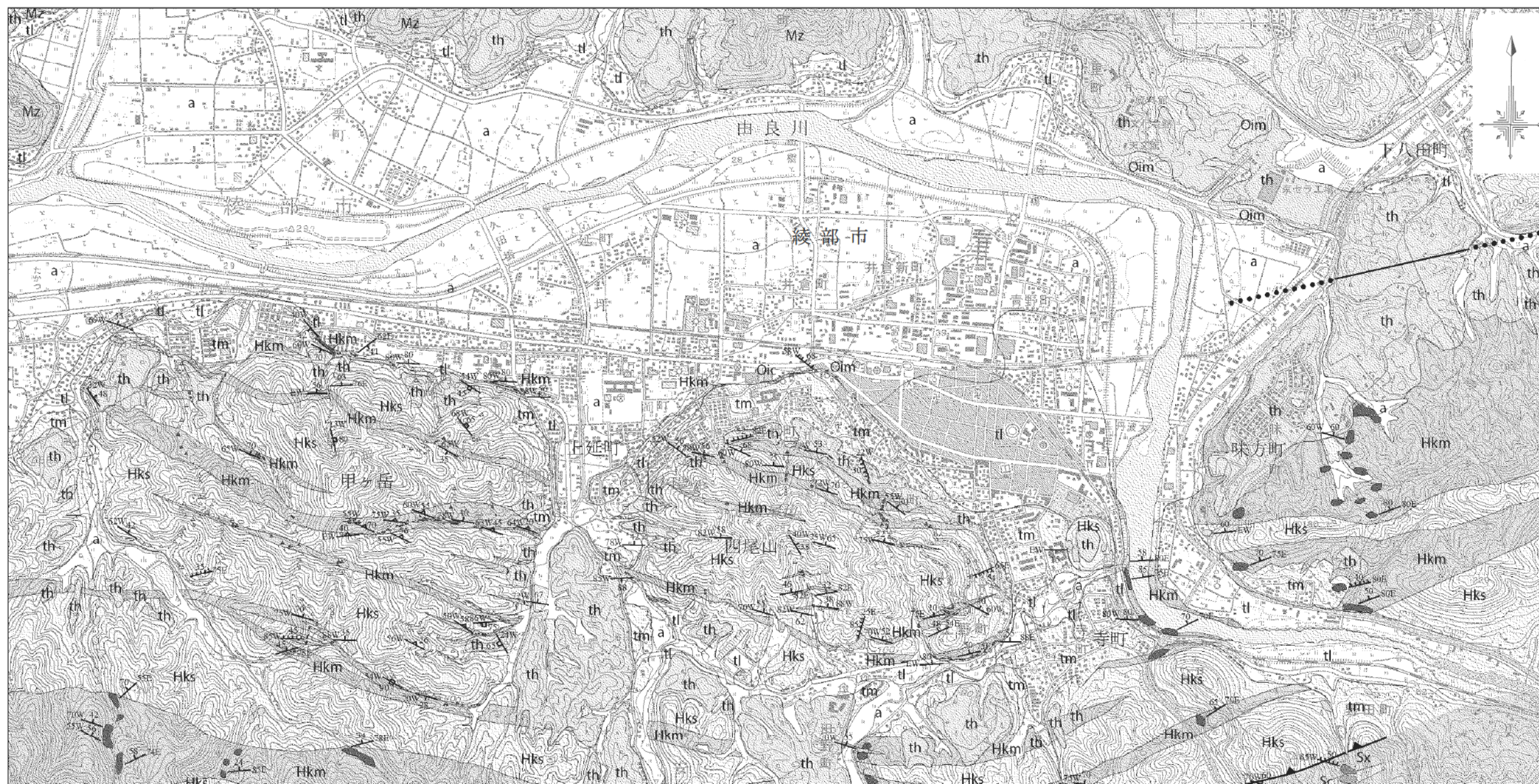
知線は低い側を示す。
矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。
短線がないリニアメントは両側で
高度の不連続が認められないもの。

谷の屈曲
Loc 詳細調査位置
(ルートマップ、スケッチ等)

表示範囲

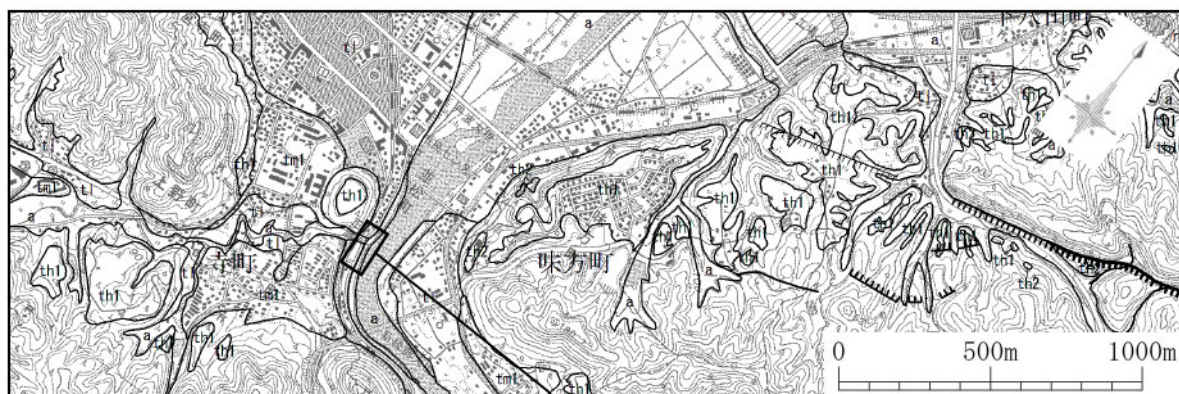
地形面の凡例			
th1	高位Ⅰ段丘面	tl	低位段丘面
th2	高位Ⅱ段丘面	atl	最低位段丘面(完新世)
tm1	中位Ⅰ段丘面	f	新期扇状地面
tm2	中位Ⅱ段丘面	a	沖積面
			人工改変地

第1. 3. 30図 上林川断層 綾部市旭町～福知山市新庄付近の地形調査結果

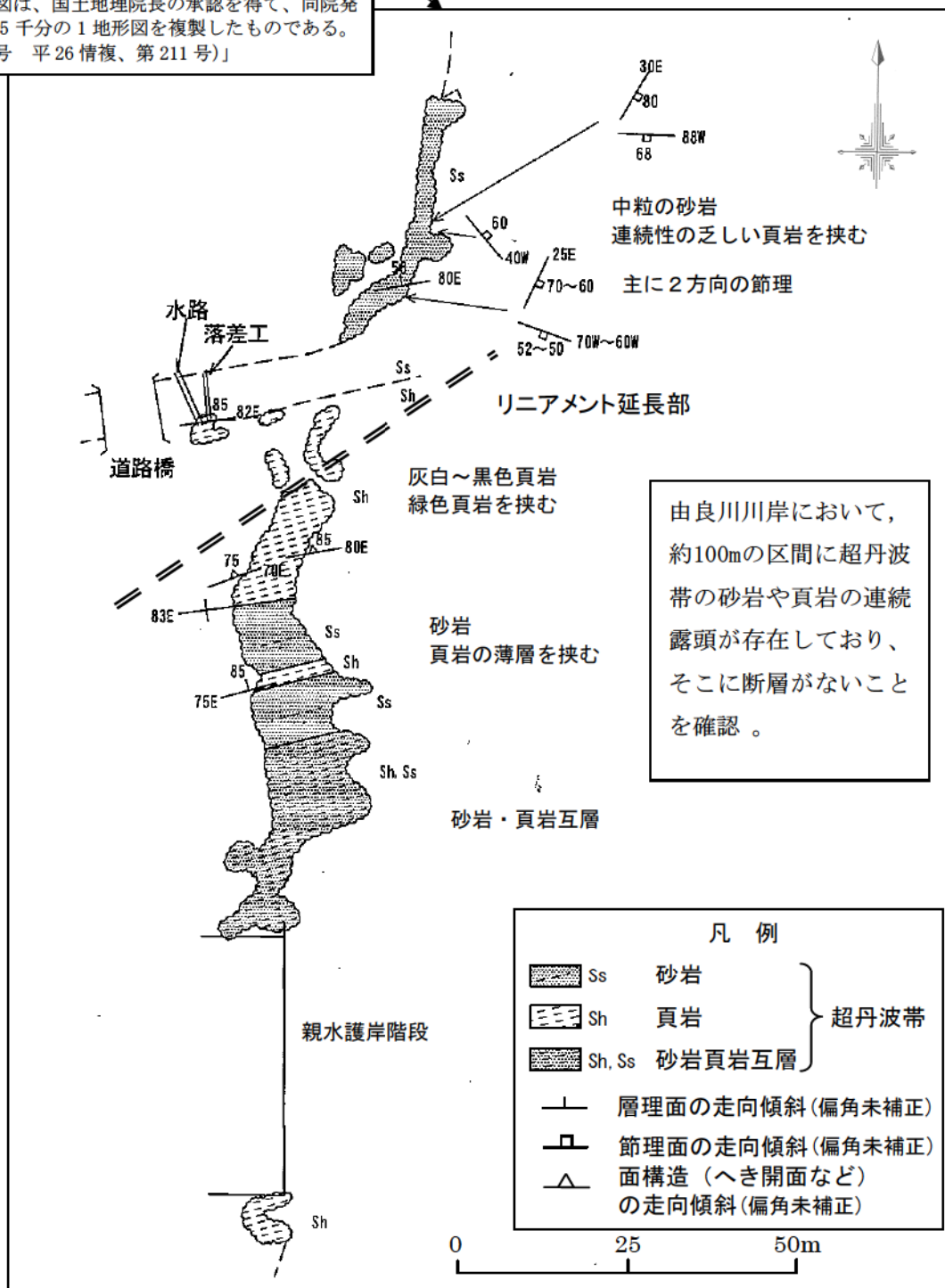


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情複、第211号)」

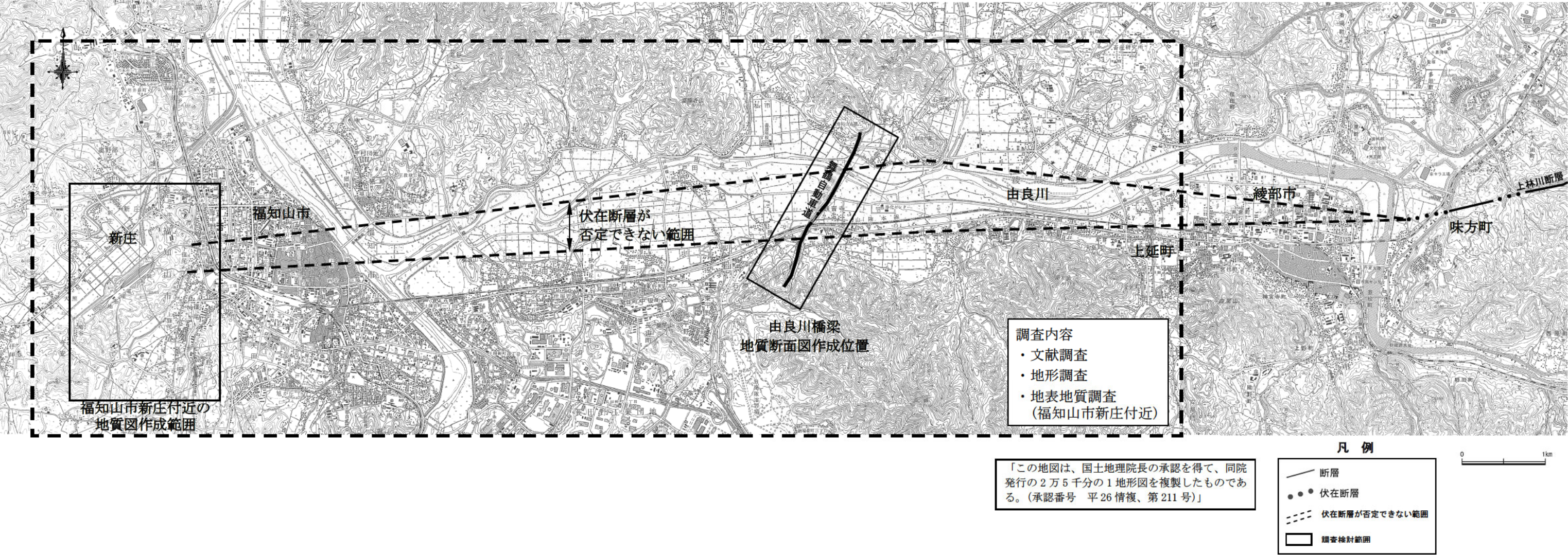
第 1.3.31 図 上林川断層 綾部市上延町付近の地質図



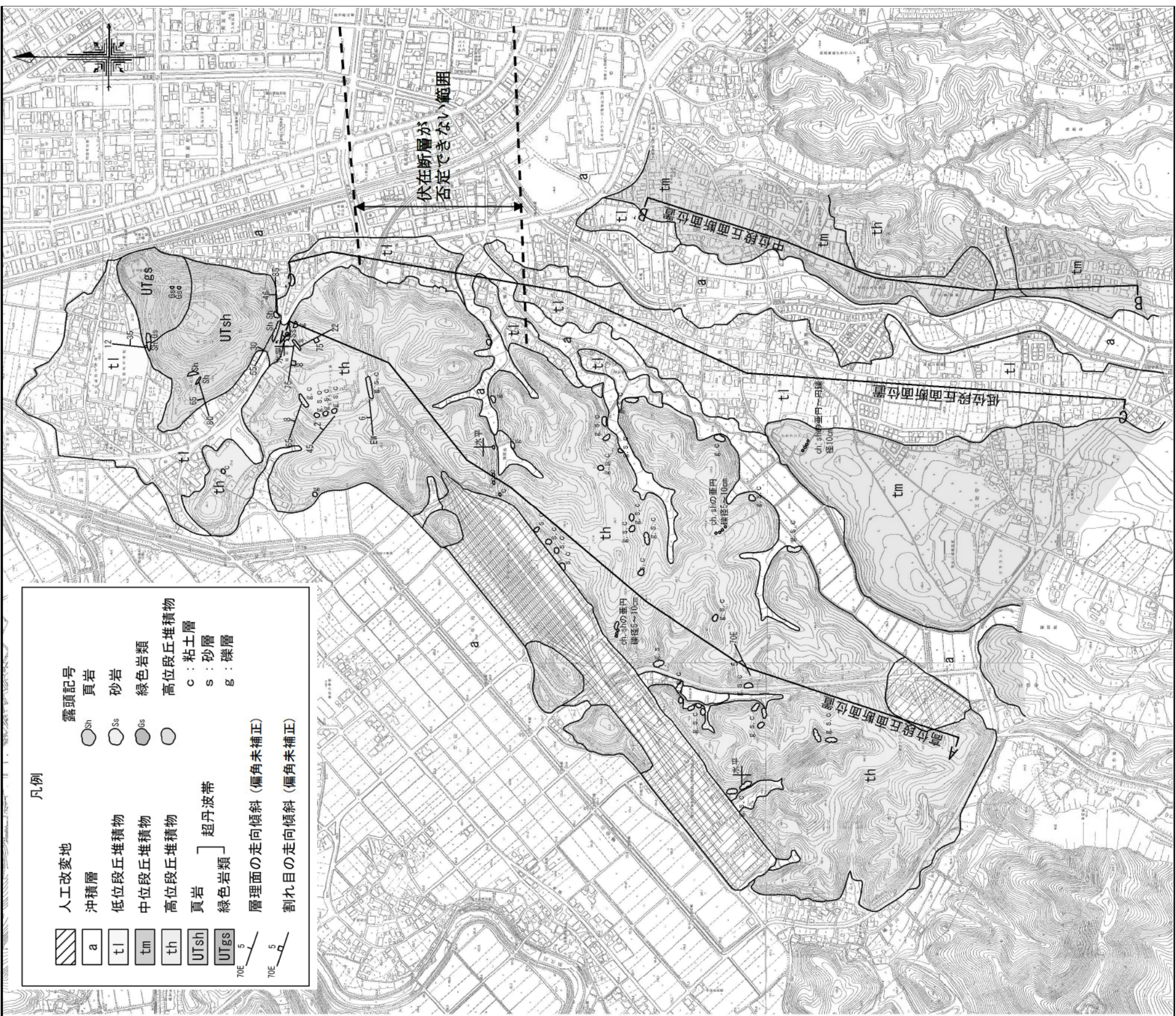
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」



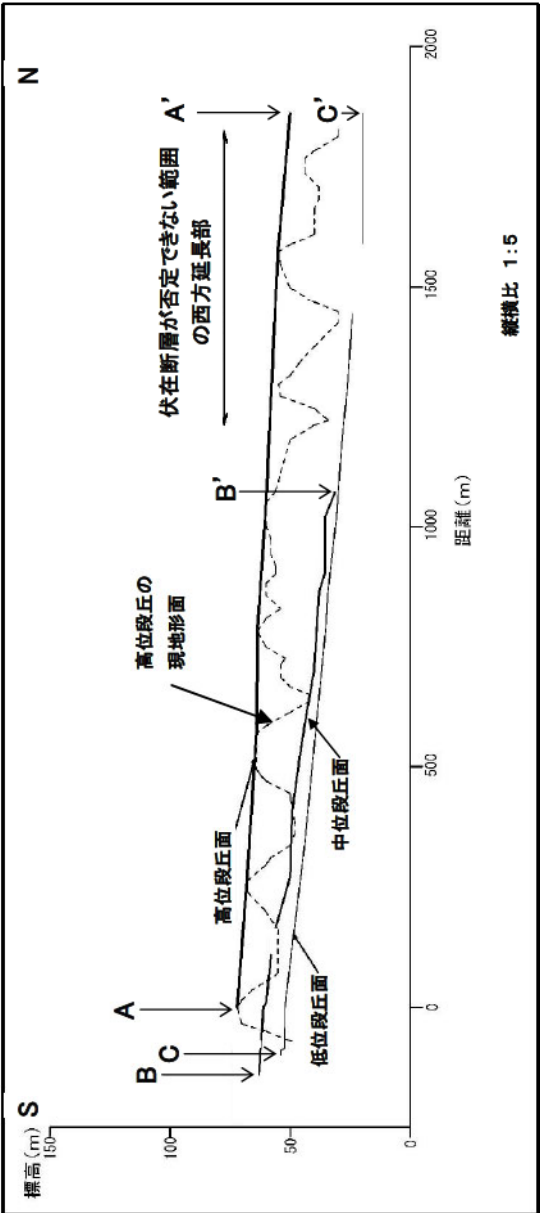
第1.3.32図 上林川断層 ルートマップ(Loc. 5)



第 1.3.33 図 上林川断層 綾部市上延町～福知山市新庄付近の調査位置図



福知山市新庄付近の地質図



ほぼ東西方向に広がる由良川の沖積低地に伏在する断層の存在が否定できないことから、西方延長部の新庄付近で地形調査と地表地質調査等を実施した。広い範囲の露頭はないものの、次に示すデータから断層が存在しないと判断した。

① 高位段丘や低位段丘の現地形面を連ねた段丘面は非常に緩く北傾斜を示し、断層による高度不連続は認められない。

② 地表地質調査から高位段丘を構成する地層の層理面は全域で緩く北に傾斜し、地質構造 (走向傾斜) には有意な変化は認められない。また、層理面は地形面 (堆積面) から推定される傾斜と調和的である。

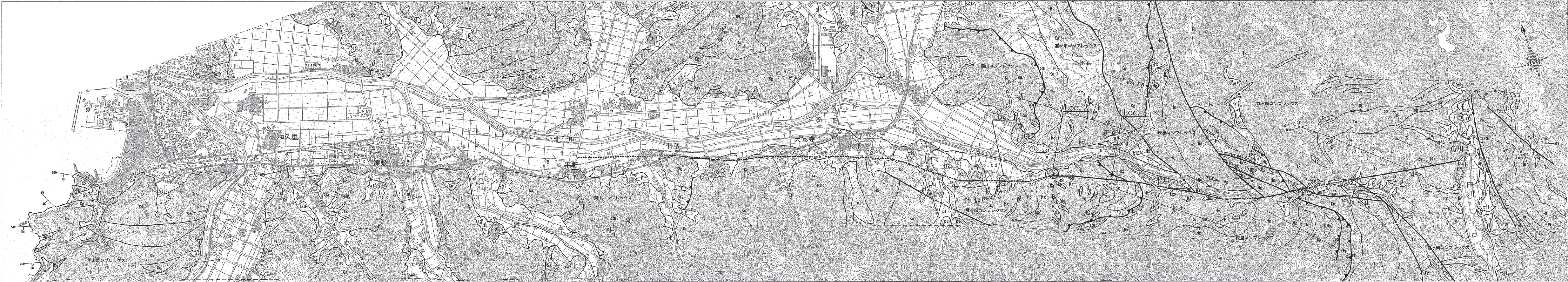


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」

地形面の凡例	
tm	中位段丘面
t11	低位Ⅰ段丘面
t12	低位Ⅱ段丘面
t13	低位Ⅲ段丘面
of	古期扇状地面
f	新期扇状地面
a	沖積面

変動地形・リニアメントの凡例	
	Bランク
	Cランク
	Dランク
短線は低い側を示す。 矢印は尾根、谷の屈曲方向を示す。 短線がないリニアメントは両側で 高度の不連続が認められないもの。	
	谷の屈曲
Loc	詳細調査位置 (ルートマップ、スケッチ等)
	表示範囲

第1.3.36図 熊川断層周辺の地形調査結果

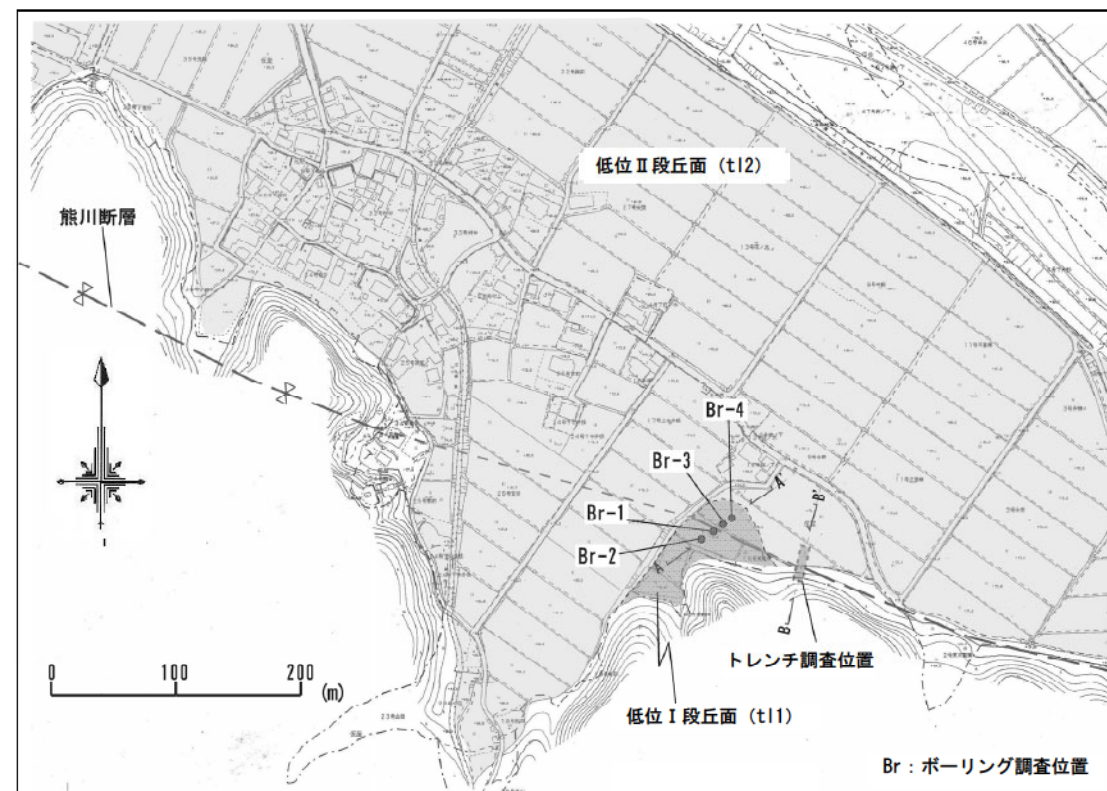


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情復、第211号)」

- 凡例
- 断層
 - 伏在断層
 - 推定断層
 - 地質体・コンプレックスの境界
 - アンチフォーム
 - シンフォーム
 - 地質境界
 - 層理面の走向傾斜(偏角未補正)
 - 面構造(へき開面など)の走向傾斜(偏角未補正)
 - 割れ目(節理面など)の走向傾斜(偏角未補正)
 - 断層面の走向傾斜(偏角未補正)
 - Loc 詳細調査位置(ルートマップ、スケッチ等)
 - 表示範囲

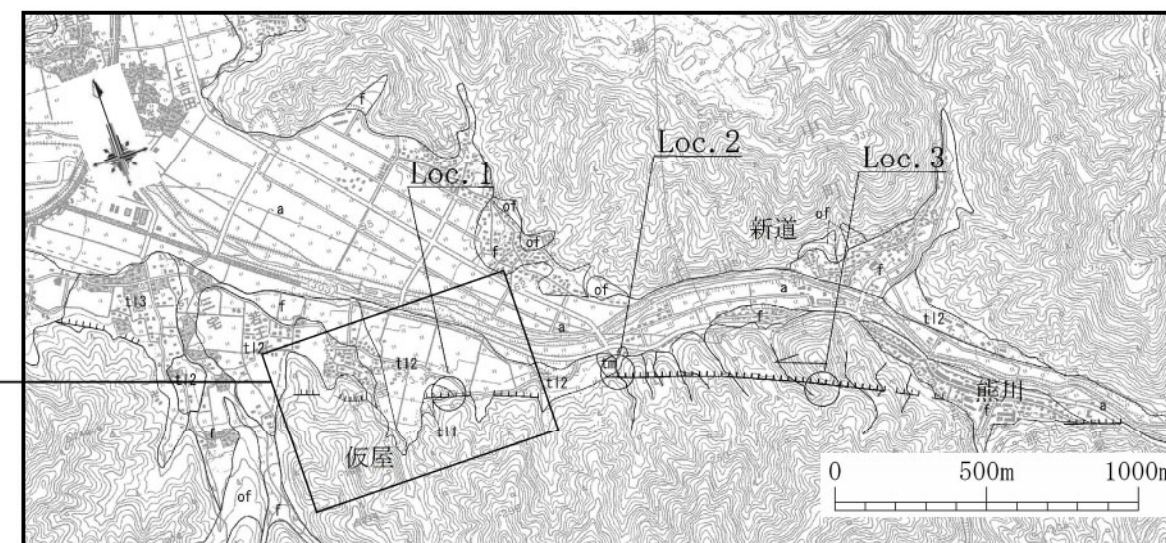
- 凡例
- 第四紀
- 完新世
 - 沖積層
 - 更新世
 - 新期扇状地堆積物
 - 古期扇状地堆積物
 - 低位Ⅲ段丘堆積物
 - 低位Ⅱ段丘堆積物
 - 低位Ⅰ段丘堆積物
 - 中段段丘堆積物
- ジュラ紀 前～後期 丹波帯
- 古屋層
 - Fu 砂岩・頁岩・砂岩頁岩互層
 - 熊ヶ岡コンプレックス
 - Tx 泥質混在岩及び頁岩
 - Tc チャート
 - 灰屋コンプレックス
 - Hx 泥質混在岩及び頁岩
 - Hc チャート、珪質粘土岩・珪質頁岩を伴う
 - Hg 緑色岩類
 - Hi 石灰岩
 - 雲ヶ畑コンプレックス
 - Kx 泥質混在岩及び頁岩
 - Ks 砂岩
 - Kc チャート
 - Kg 緑色岩類
 - 周山コンプレックス
 - Sx 泥質混在岩及び頁岩
 - Ss 砂岩
 - Sc チャート
 - Sg 緑色岩類

第1.3.37図 熊川断層周辺の地質図



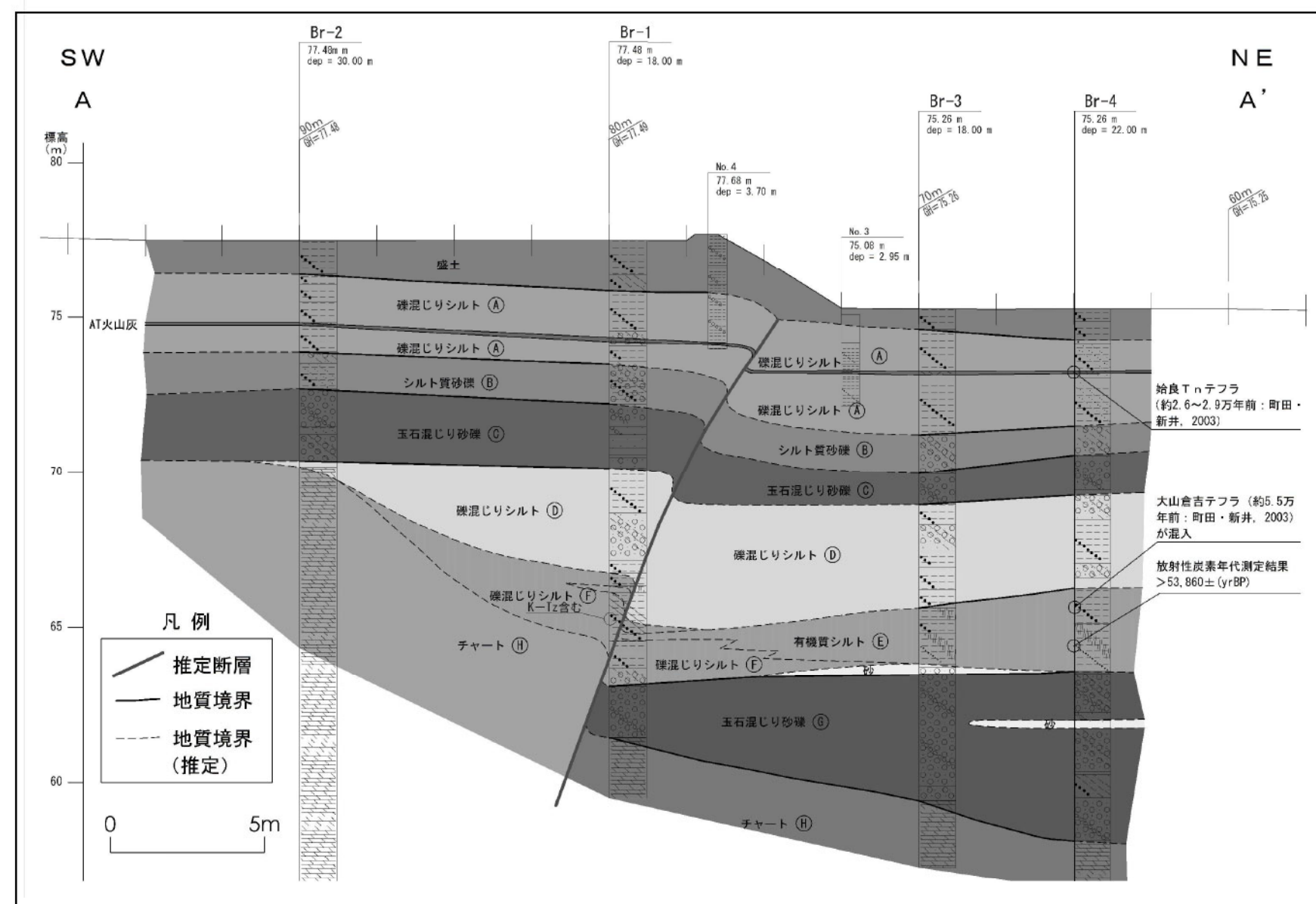
トレンチ・ボーリング調査位置図

仮屋東南の低位Ⅰ段丘面上の低崖においてボーリング調査を実施した。ボーリング調査の結果, Br-1 の礫混じりシルト層中に見かけの傾斜角が約 70° の断層面を確認し, 始良 Tn テフラ (AT) の純層に約 1.5m の南側隆起の変位を確認した。



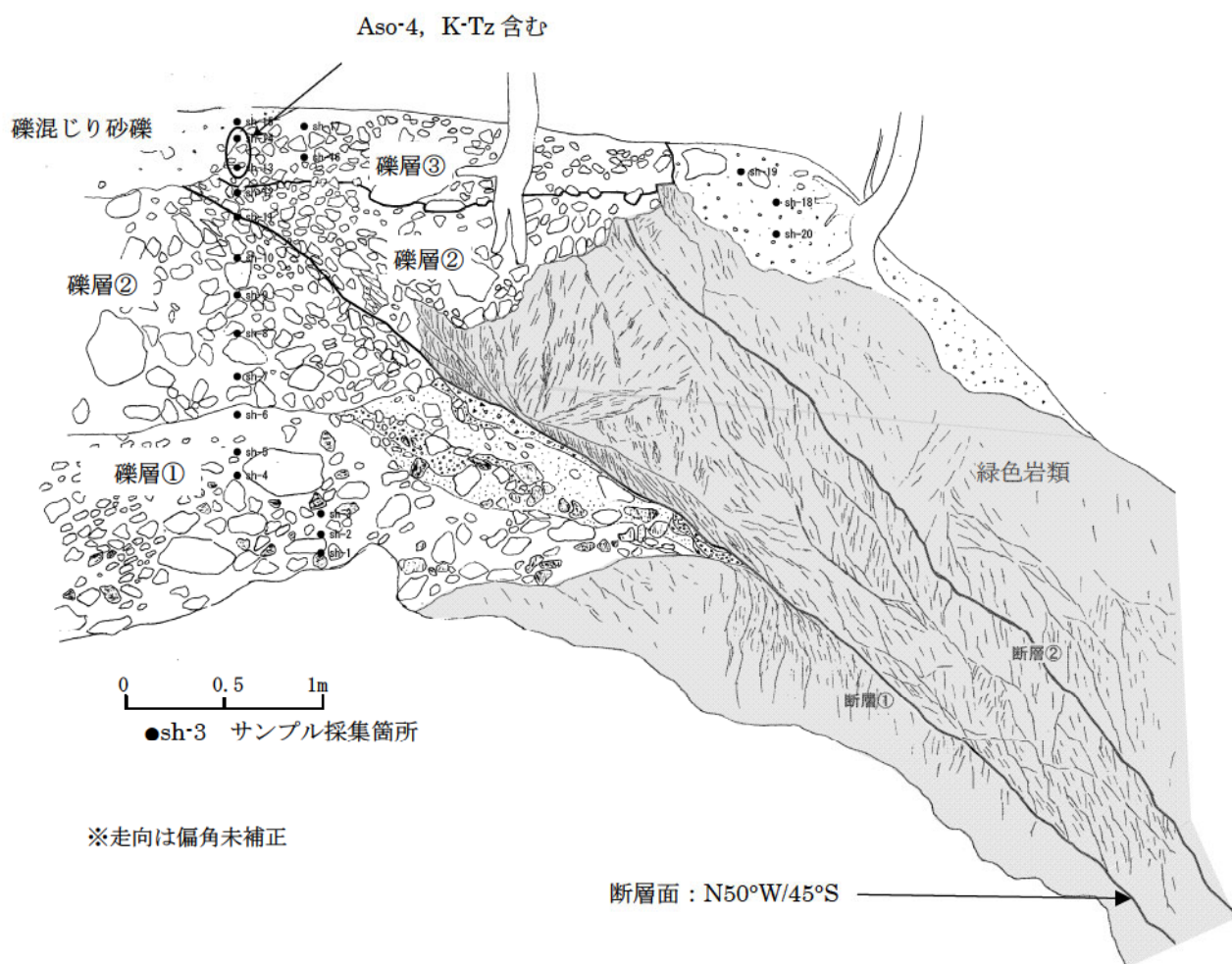
調査位置図

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」



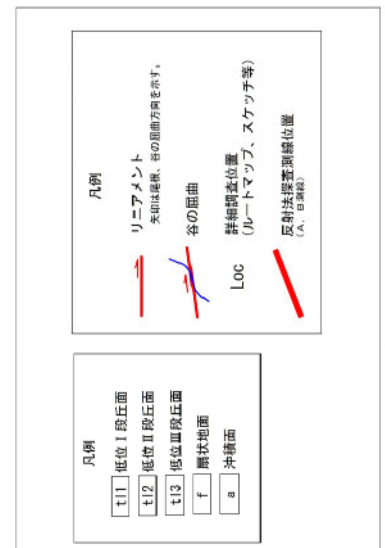
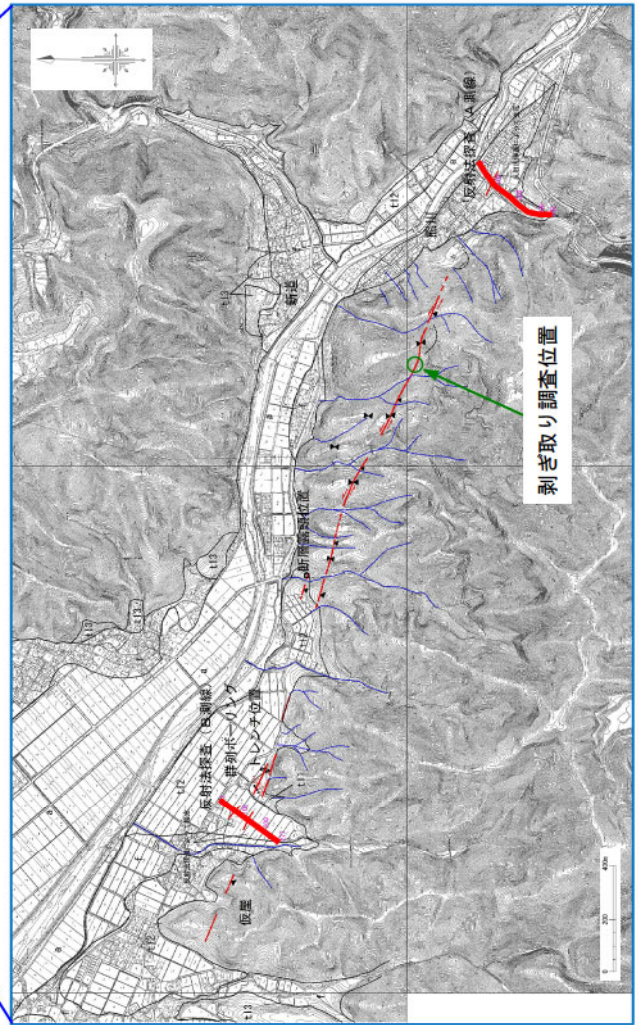
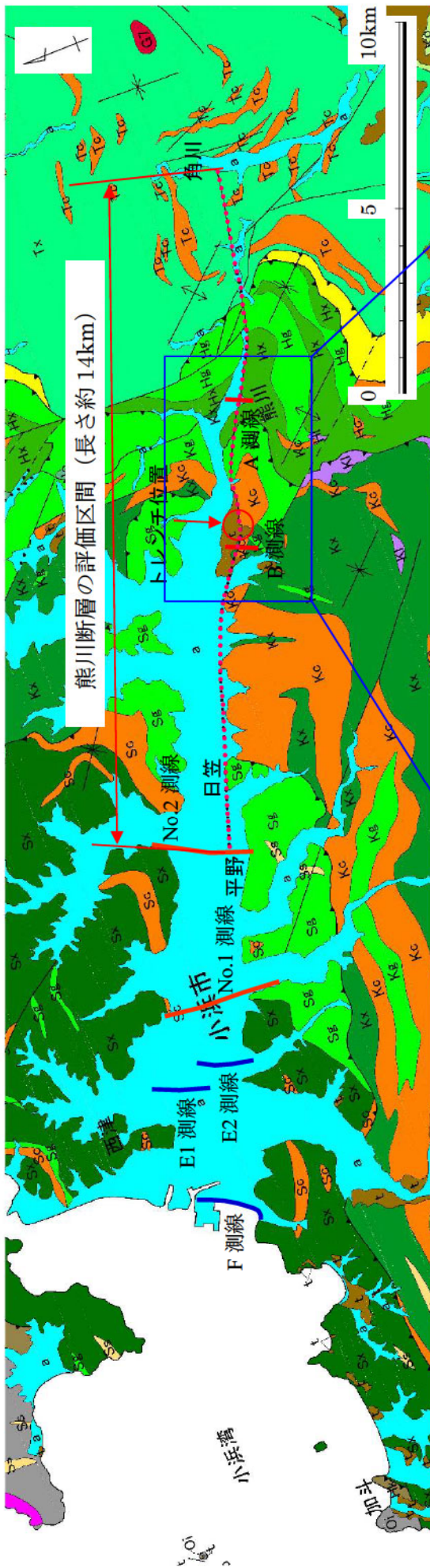
地質断面図

第 1.3.38 図 熊川断層 トレンチ調査・ボーリング調査位置図及び地質断面図 (Loc. 1)

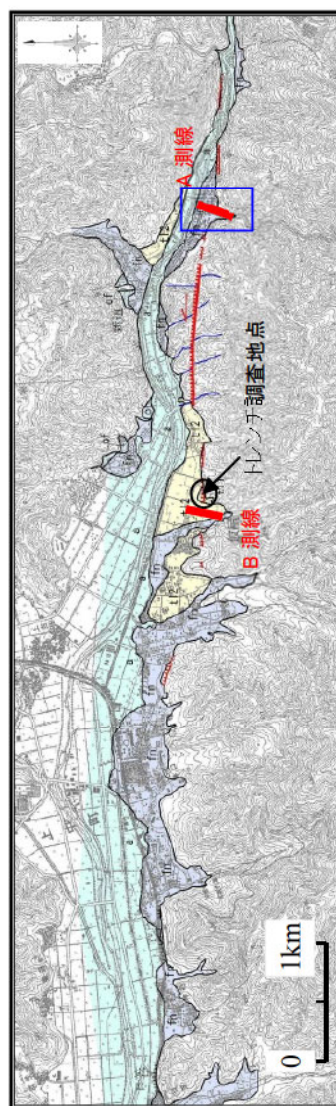


- ・緑色岩類と礫層が断層関係で接している。
- ・緑色岩類は全体に亀裂が発達しており、断層の近くでは軟質になっていることが多い。
- ・断層①の代表的な走向傾斜は N50° W/45° S で、熊川断層のリニアメントとはやや斜交している。
- ・断層①では、幅数 mm の黄褐色粘土が認められ、断層面は明瞭である。
- ・断層沿い（上盤側）の幅約 10～20cm の範囲では、緑色岩類の破碎が著しく礫状となっている。
- ・礫層①は、砂岩及び緑色岩類のくさり礫を含む礫層である。礫層②は緑色岩類やチャートの新鮮な礫を含んでいる。
- ・断層①は、礫層①及び礫層②を変位させており、礫層②の断層延長部では、礫の定向配列が確認できる。
- ・礫の定向配列は、礫層②では上部まで認められるが、礫混じり砂層には影響は及んでいない。
- ・礫層③からは、鬼界葛原テフラ（K-Tz）と阿蘇 4 テフラ（Aso-4）が確認され、礫層③は中位段丘相当層であると考えられるが、礫層③と断層の関係は不明である。

第 1.3.40 図 熊川断層 露頭スケッチ (Loc. 2)

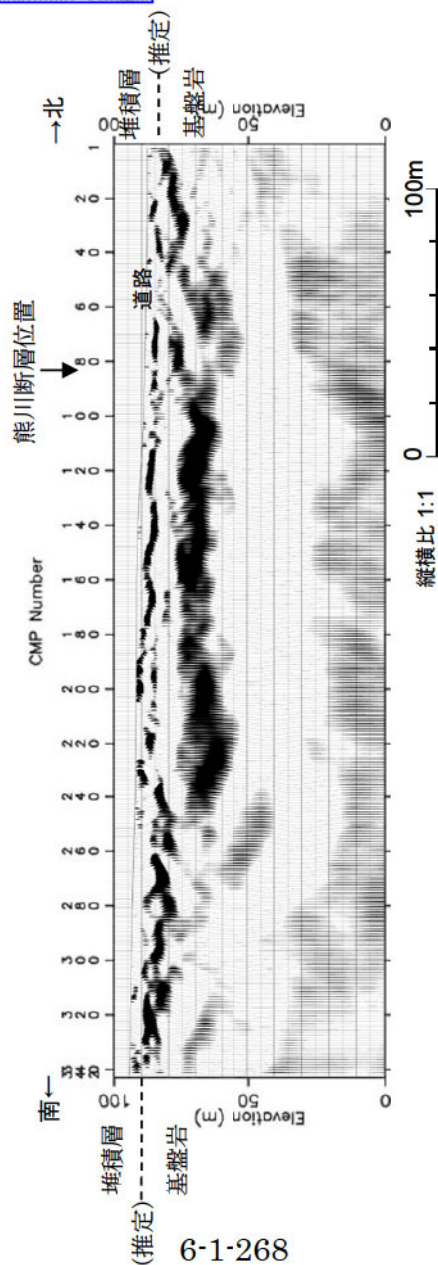


第 1.3.41 図 熊川断層 飯屋付近～熊川付近の調査位置図



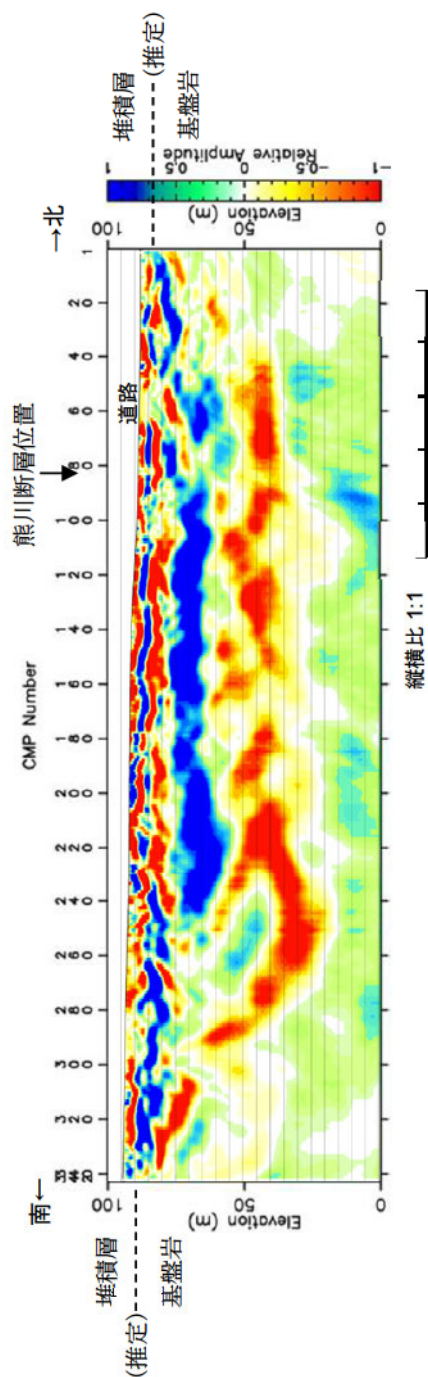
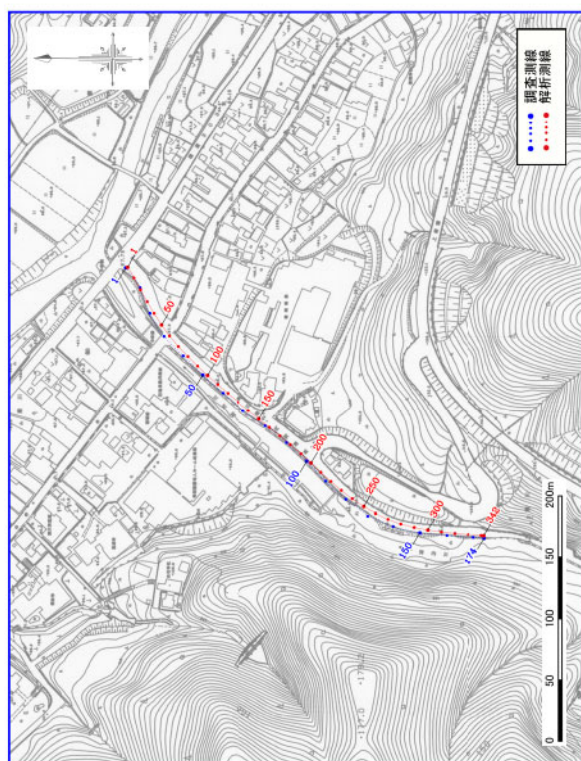
調査位置図

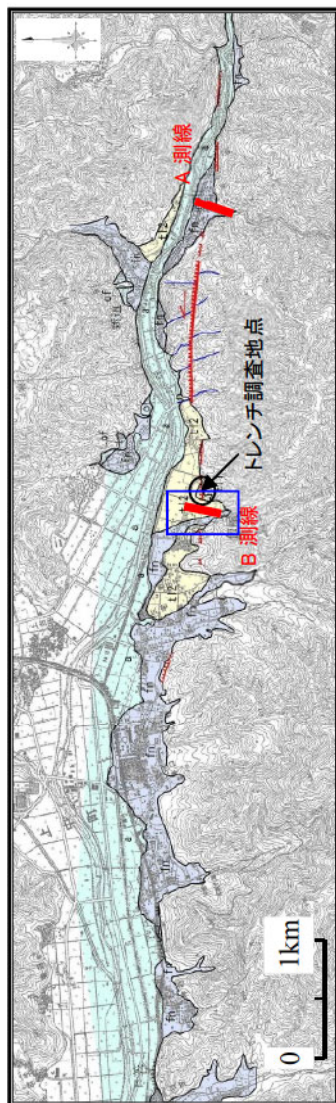
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平26情複、第211号)」



6-1-268

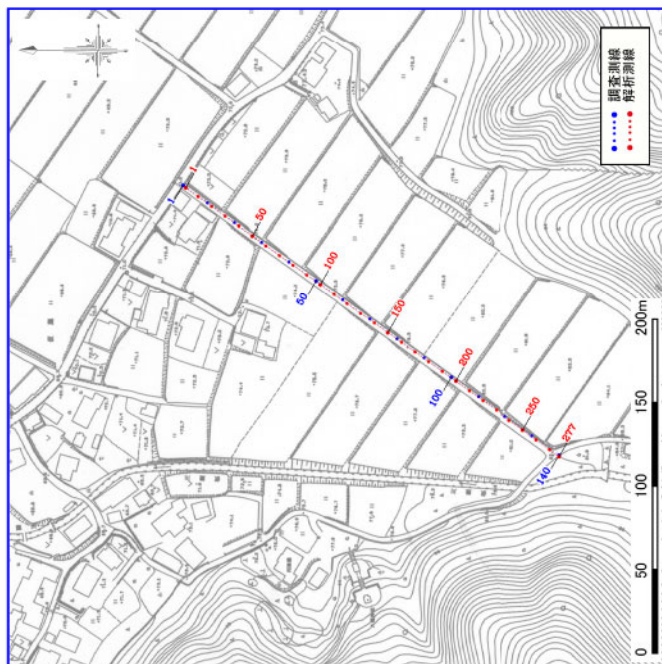
測線配置図





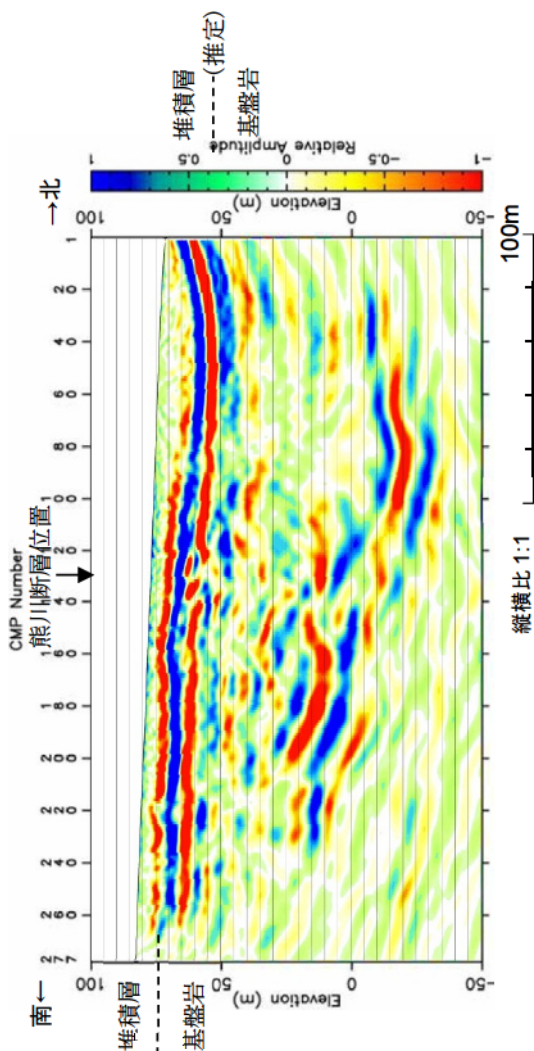
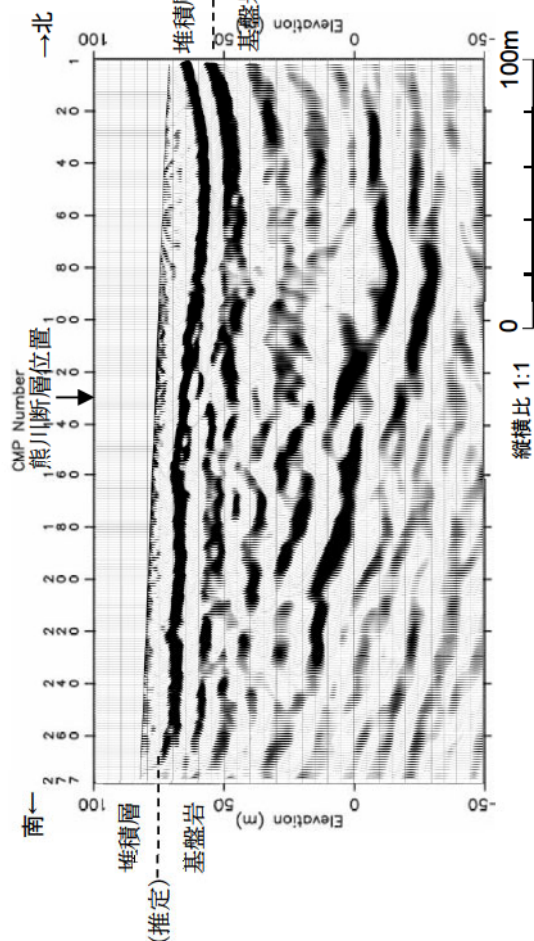
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の
2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番
号 平 26 情 複、第 211 号)」

調査位置図

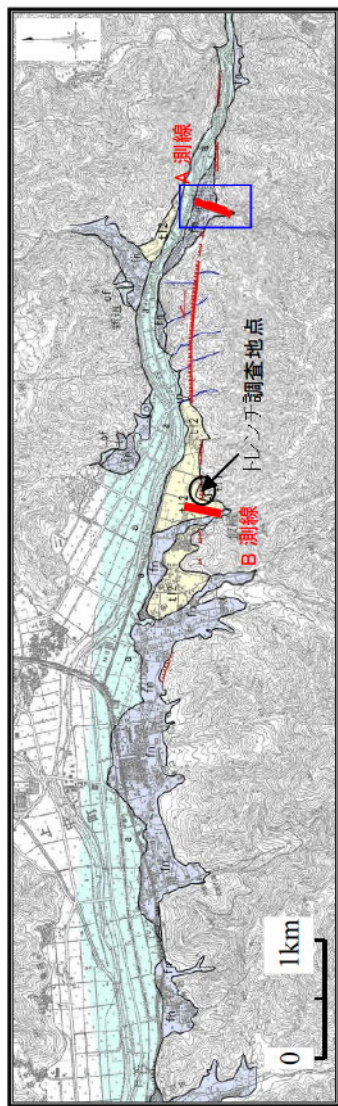


測線配置図

B 測線 (解釈なし)



第1.3.43図 熊川断層 反射法地震探査記録 (B 測線)

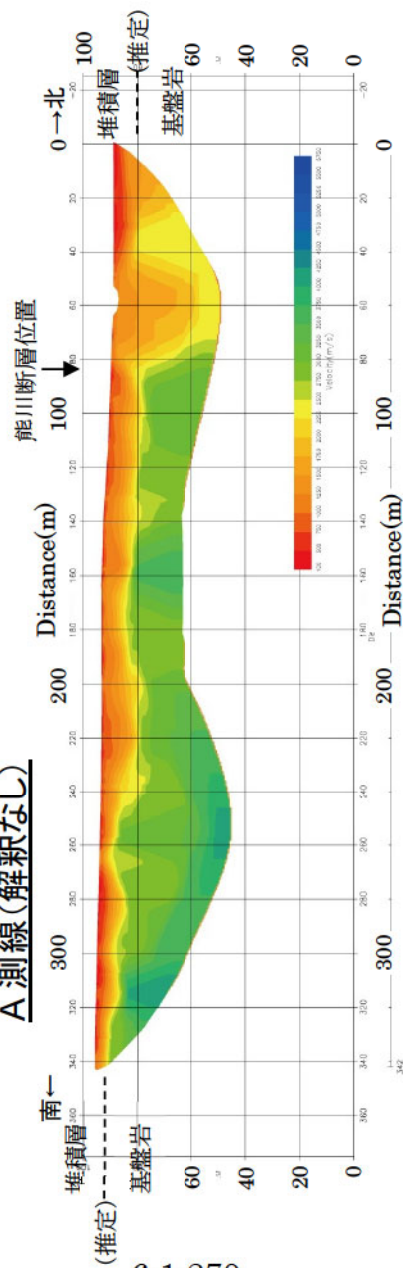


「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平 26 情複、第 211 号)」

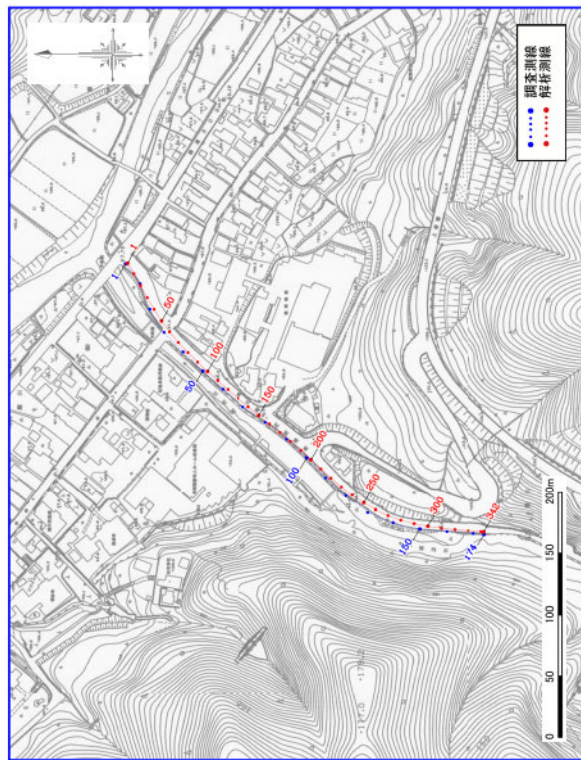
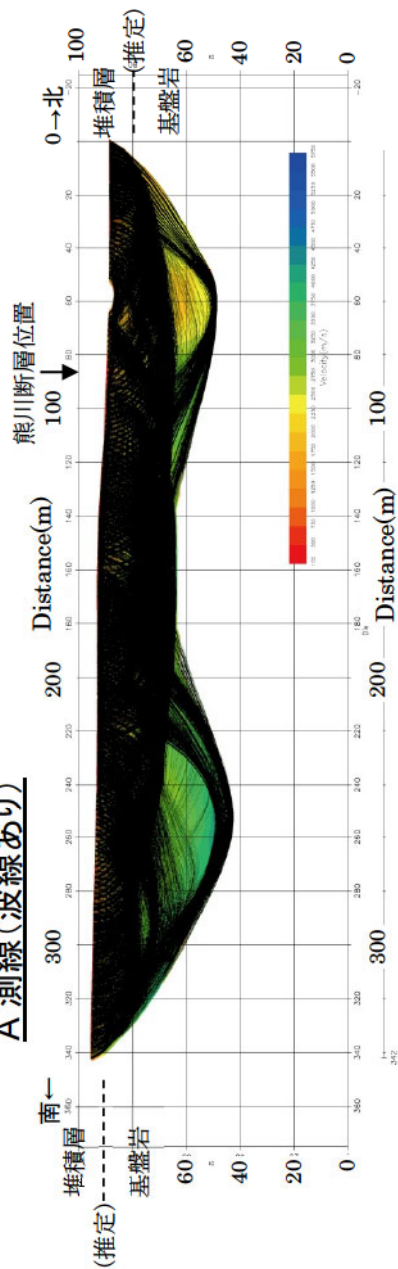
調査位置図

P波速度分布図

A 測線 (解釈なし)



A 測線 (波線あり)



6-1-270

測線配置図



・ 破砕幅 6m 以上

・ 破砕帯を構成する断層岩類:断層ガウジ,断層角礫,ウルトラカタクレーサイト,カタクレーサイト,

プロトカタクレーサイト

・ カタクレーサイトも全体的に粘土化しており,未固結破砕部近傍ほど顕著である。

・ 破砕帯中には連続性のよい断層面が数条認められる。

・ 全体的に左横ずれ逆断層(南上がり)センスを示す変形指標が認められる(変形指標の観察面の勾配約 25° NW:認められる条線角度とほぼ同じ)。

第 1.3.45 図 熊川断層 露頭全体写真 (Loc. 3)



写真 a 断層面の下盤上面

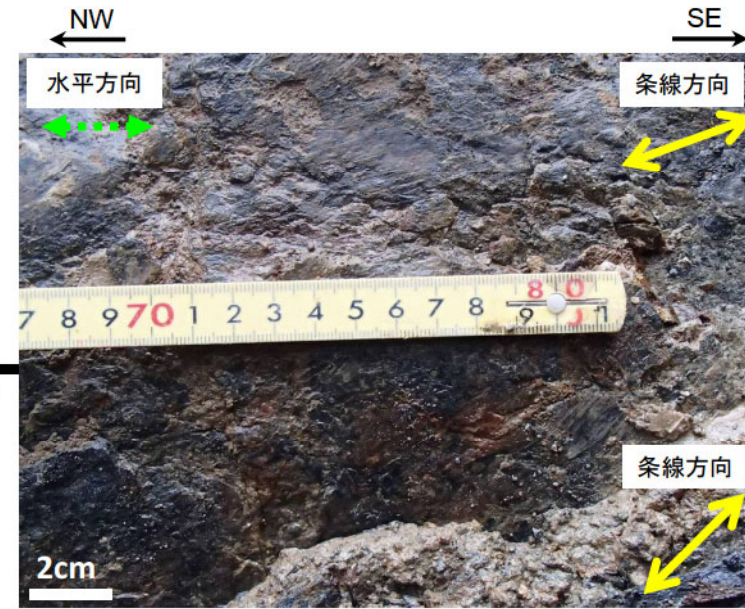


写真 b 断層面の下盤上面

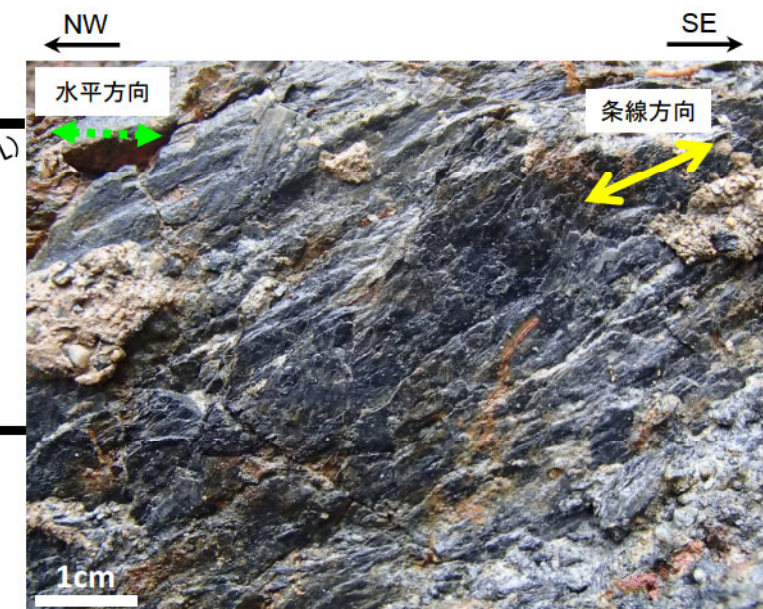


写真 c 断層面の下盤上面



写真 d 断層面の下盤上面
条線はやや不明瞭



写真 e 断層面の上盤下面

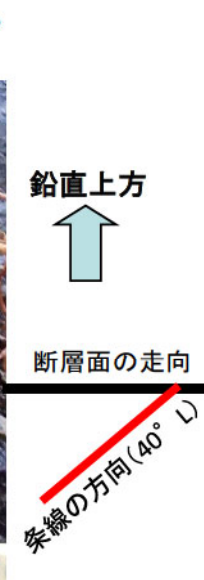


写真 f 左横ずれ逆断層

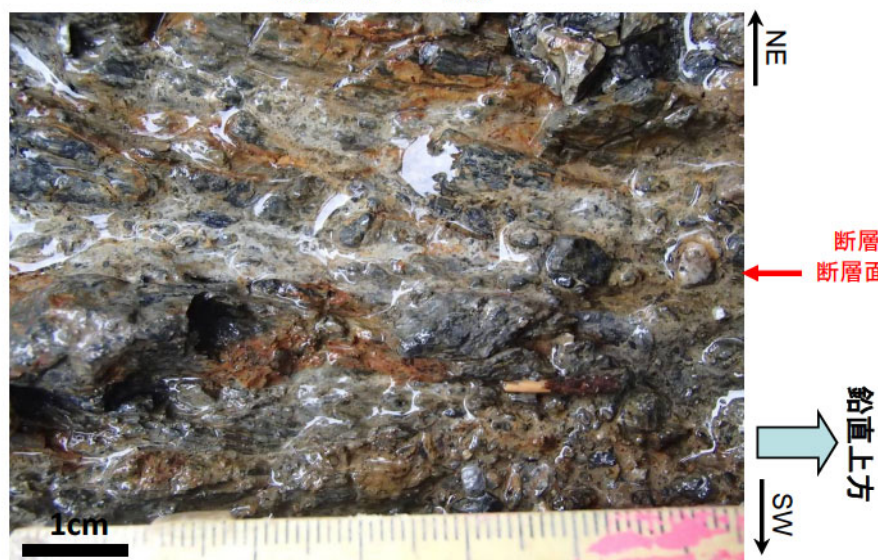


写真 g 左横ずれ逆断層
(南上がり)センスを示す P フォリエーション



写真 h 左横ずれ逆断層 (南上がり)センスを示す σ 組織

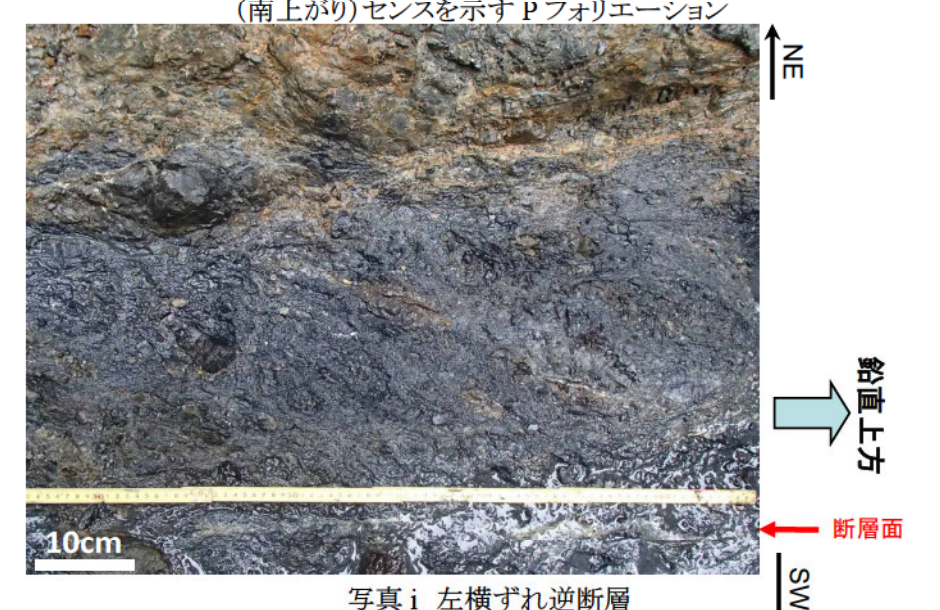
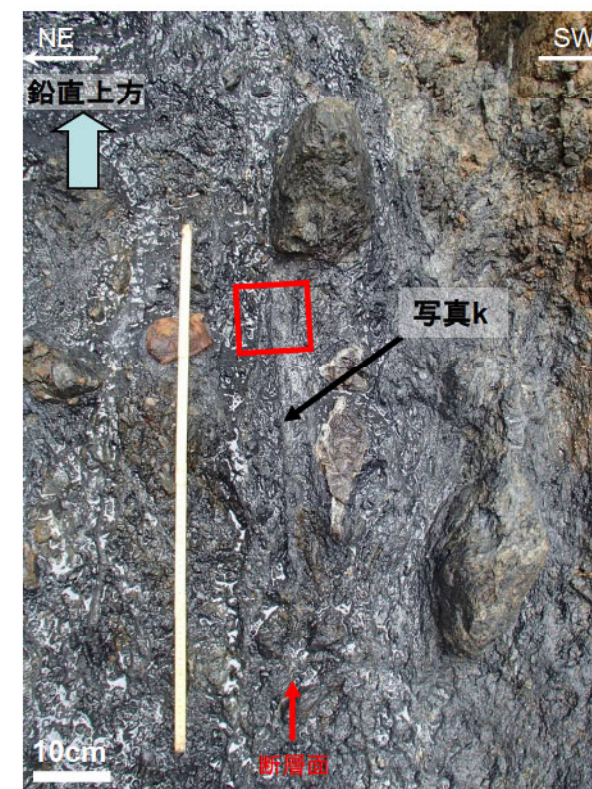


写真 i 左横ずれ逆断層
(南上がり)センスを示す P フォリエーション

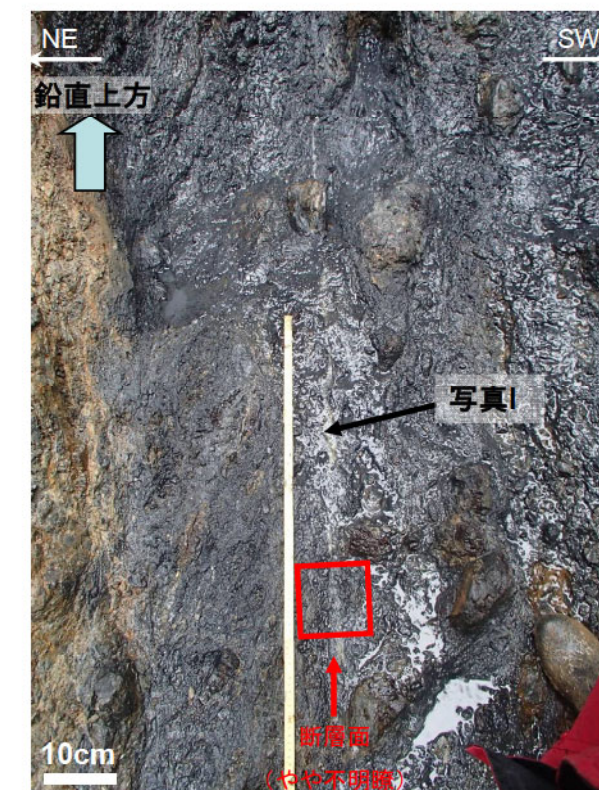
第 1.3.46 図(1) 熊川断層 条線観察結果 (Loc. 3、露頭観察) (1)



写真 A 左横ずれ逆断層
(南上がり)センスを示す変形指標が発達(P フォリエーションなど)



KF-1 サンプル位置
シャープな断層面に沿って幅 2~5cm の灰
黒色断層ガウジが認められる。



KF-2 サンプル位置
やや不明瞭な断層面に沿って幅約 2cm の白褐色断層
ガウジ(膨縮が激しい)が認められる。

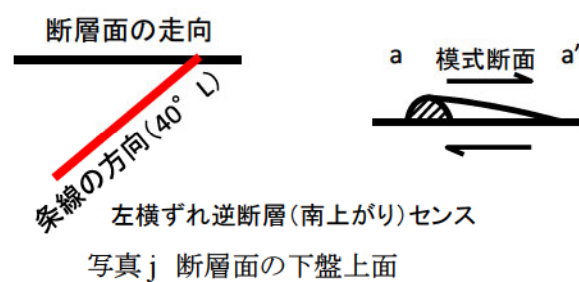
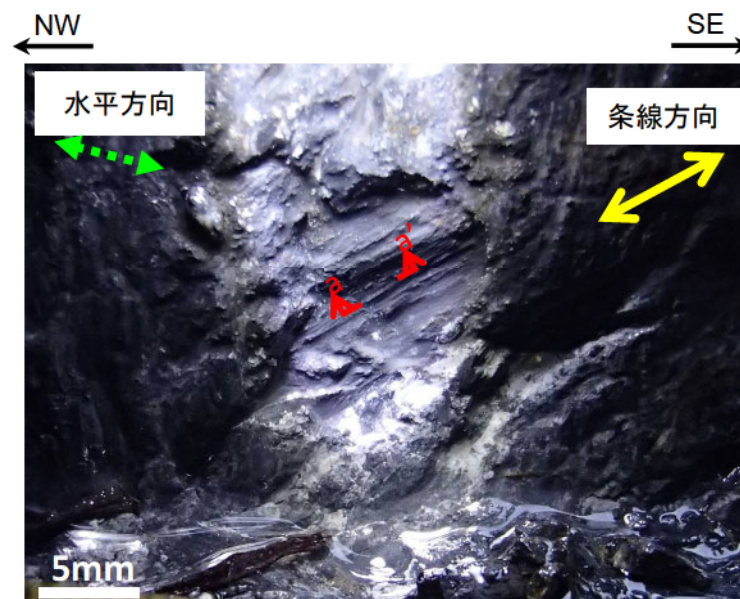


写真 k 左横ずれ南上がりセンスを示す変形指標

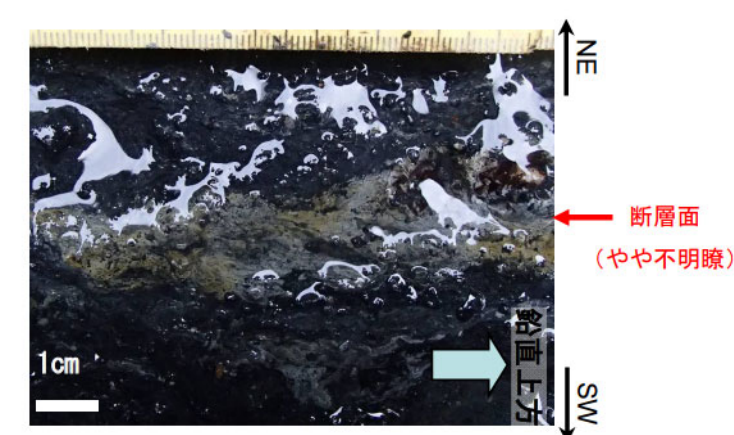
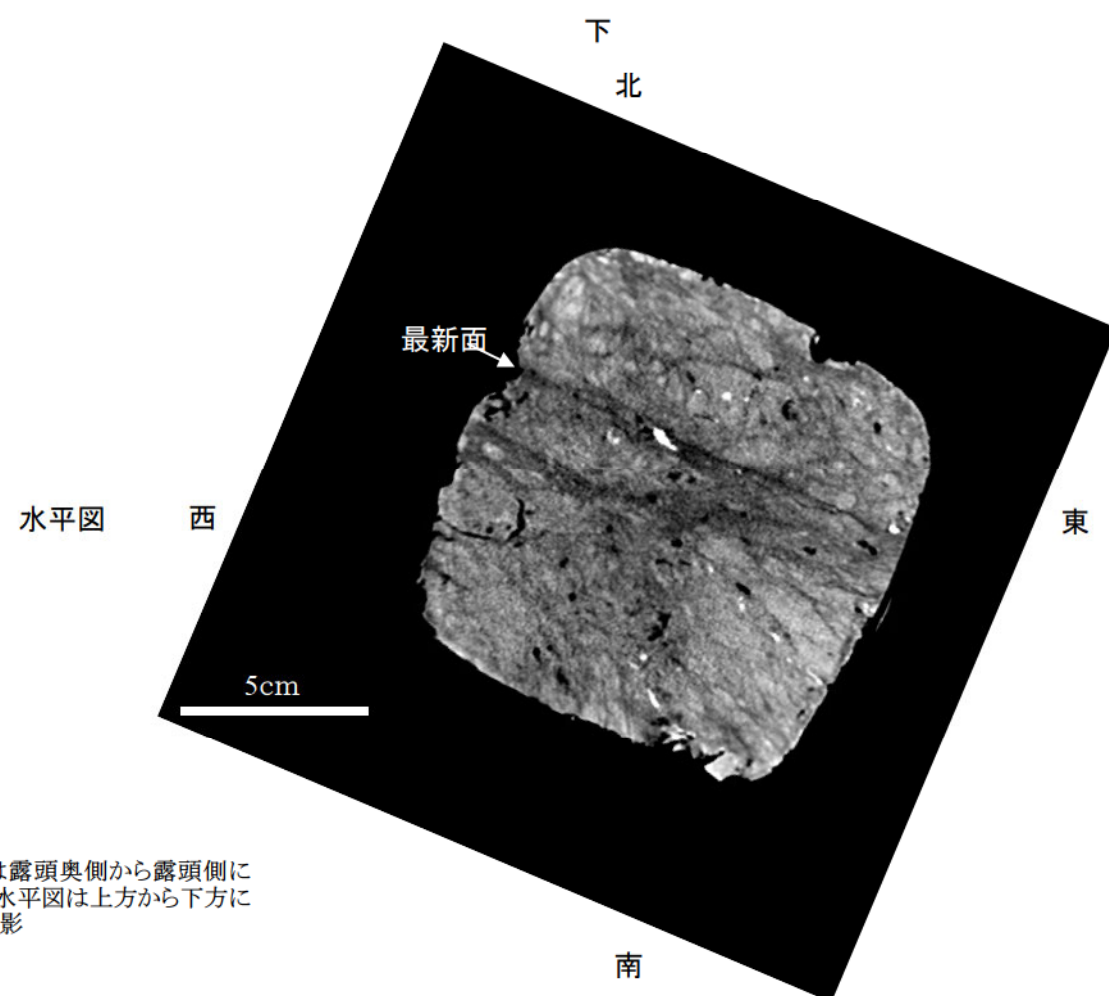
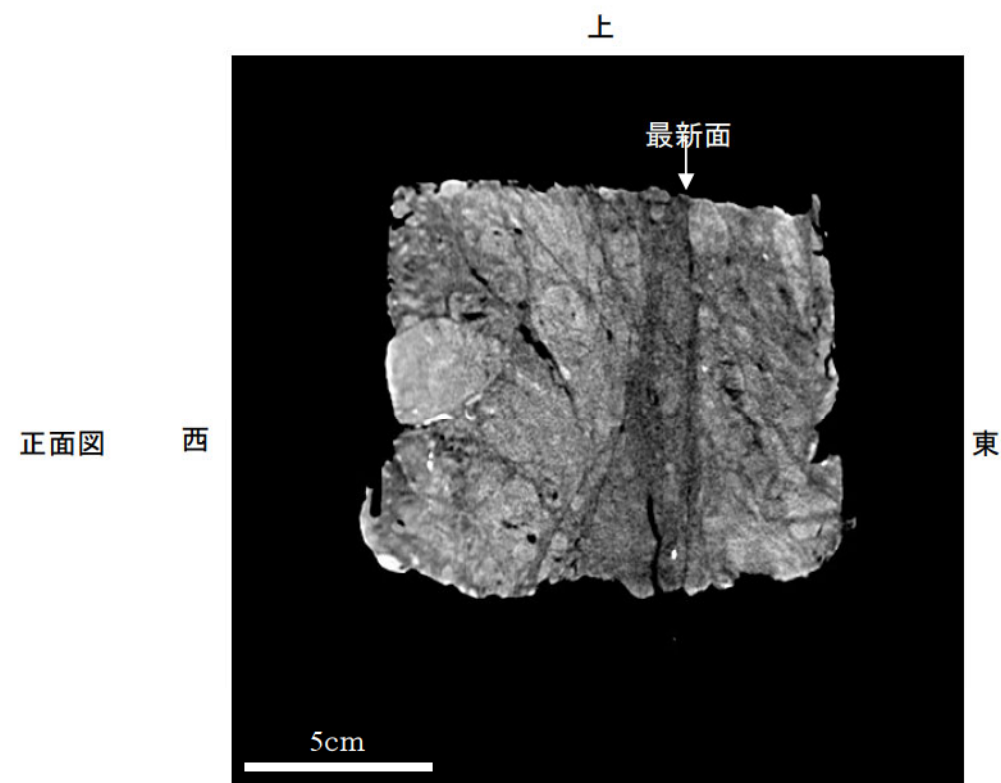


写真 l 左横ずれ逆断層
(南上がり)センスを示す P フォリエーション



※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、水平図は上方から下方に向けて撮影

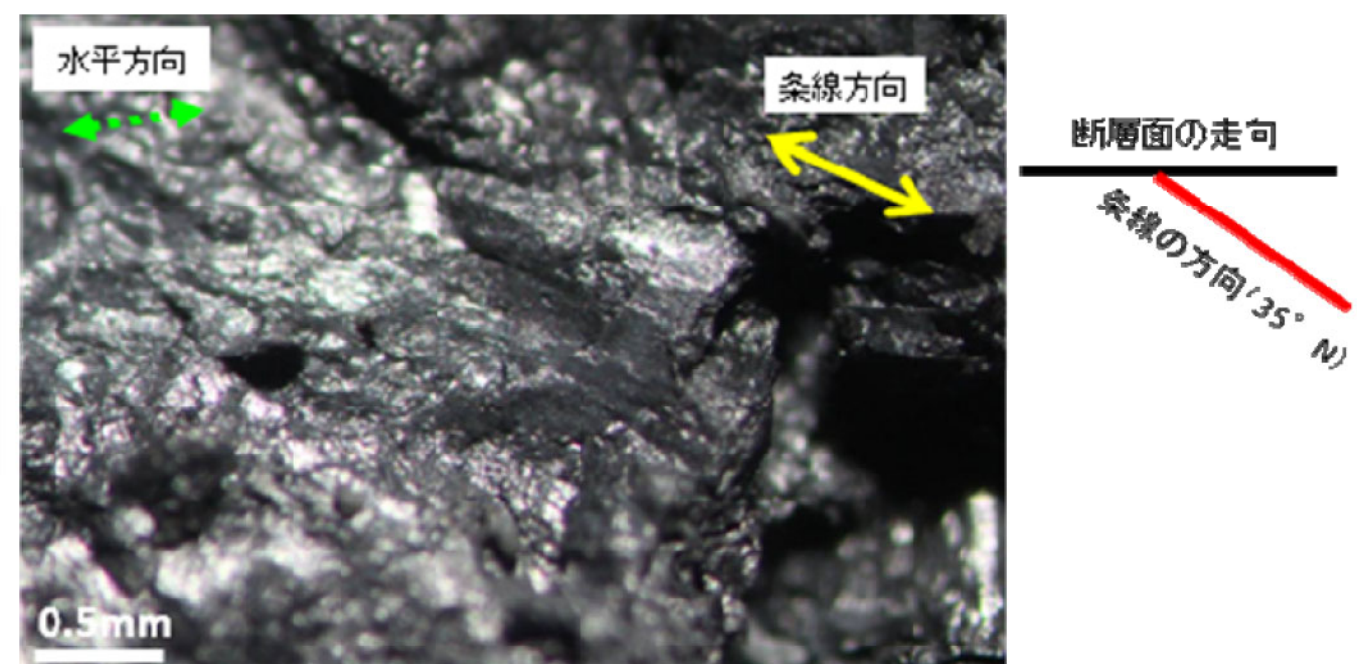
断層面の走向傾斜:N67W/90

縦ずれ成分:南上がり, 横ずれ成分:左横ずれ

最新面より西側幅 2~3cm のゾーンで密度低下が顕著(断層ガウジ)



KF-1 の断層面(東側から観察)



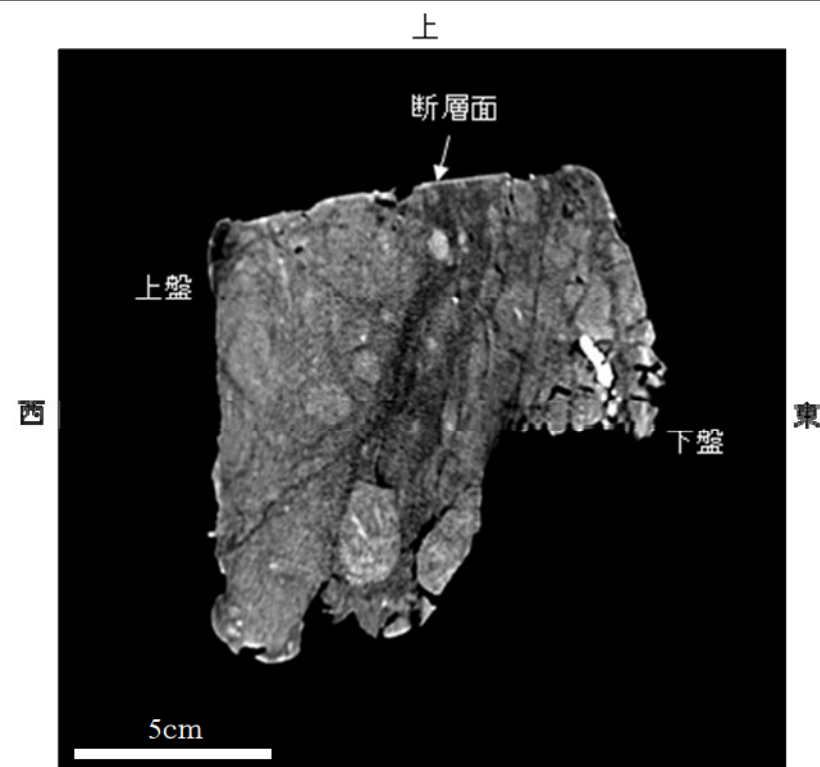
断層面の状況

センス不明

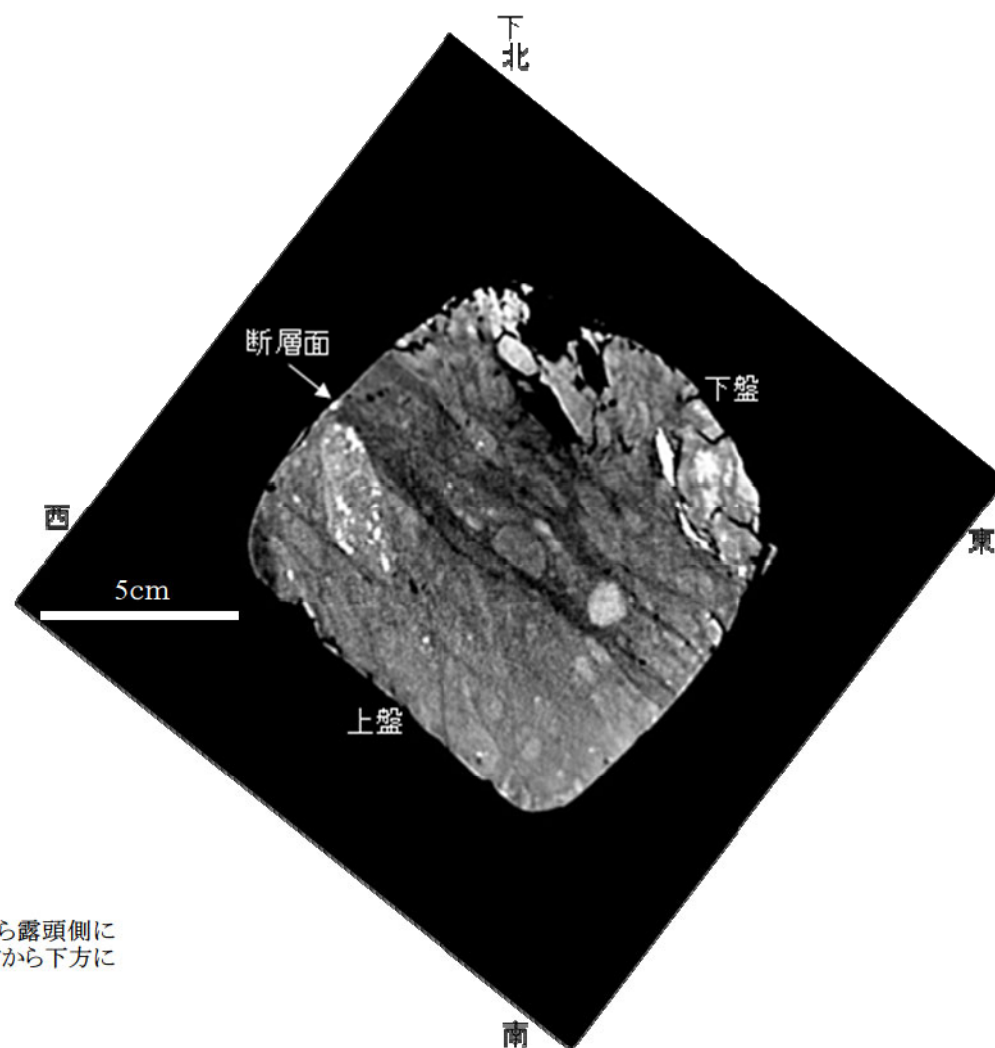
断層面の走向
条線方向(35° N)

第 1. 3. 47 図 熊川断層 条線観察結果 (Loc. 3、KF-1 試料)

正面図



水平図



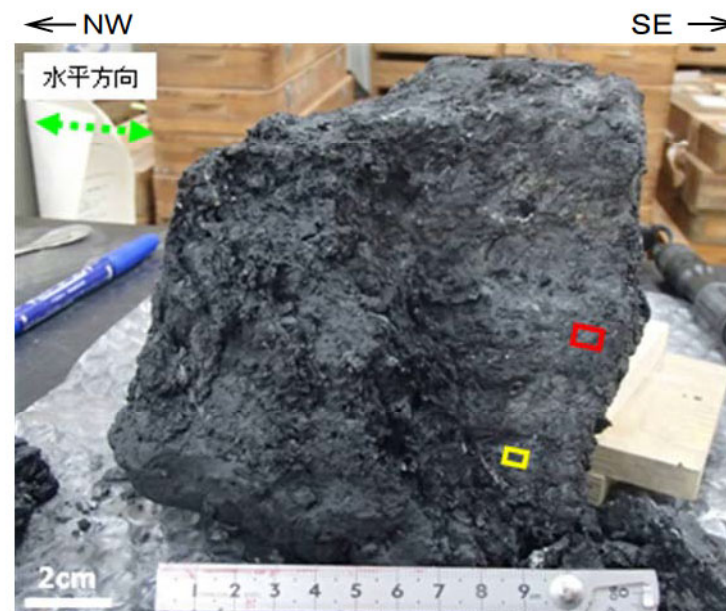
※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、水平図は上方から下方に向けて撮影

断層面の走向傾斜: N52W/80W

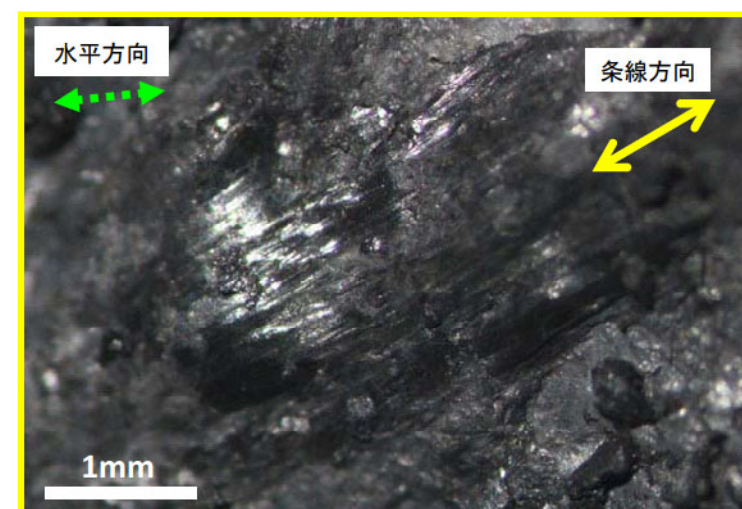
縦ずれ成分: 逆断層 (南上がり), 横ずれ成分: 左横ずれ

断層面の周囲に微小断層面が数条認められる。

中央部でやや密度が低下する。



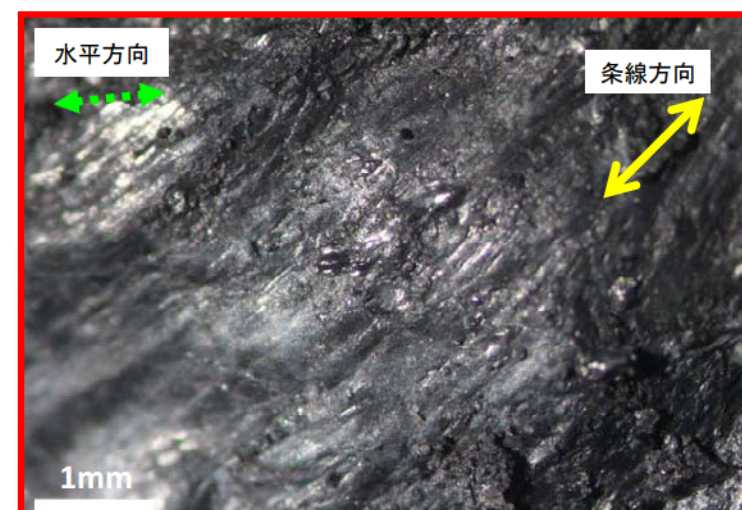
KF-2 (下盤上面)



断層面の状況

断層面の走向
条線方向 (24° L)

センス不明

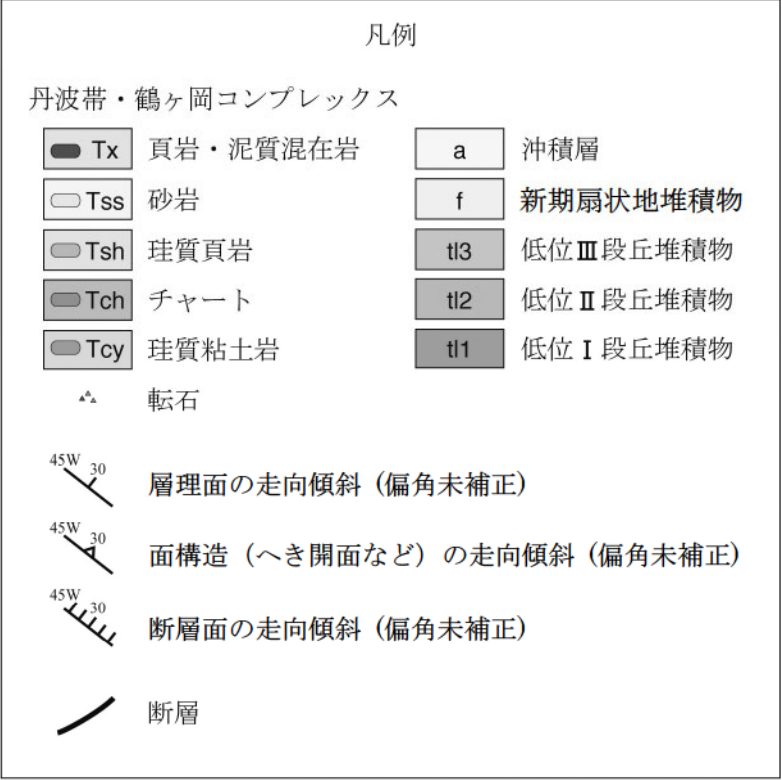


断層面の状況

断層面の走向
条線方向 (39° L)

(上写真の断層面近傍の断層面:
上盤側)

センス不明



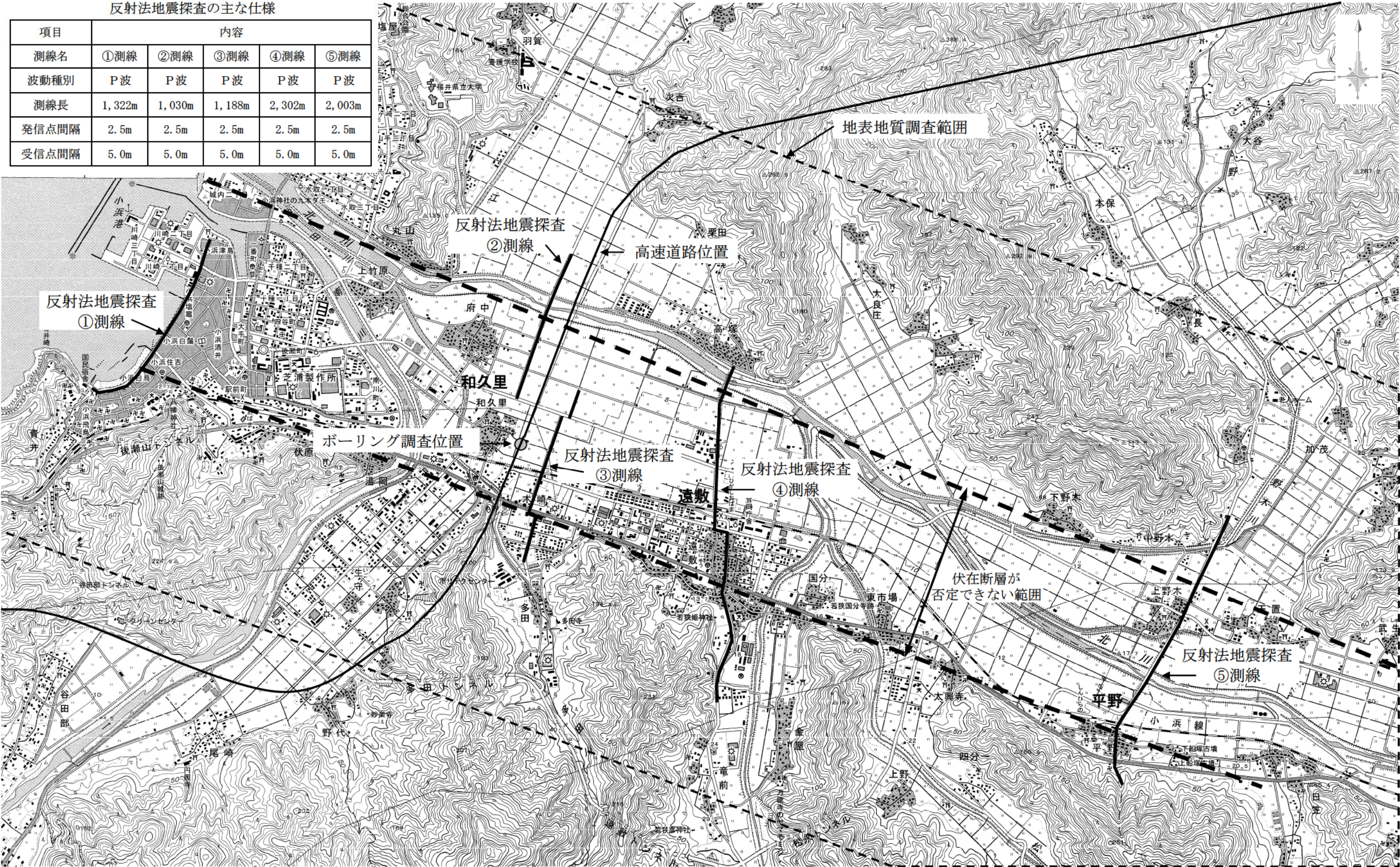
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号 平26情複、第211号）」



第 1.3.49 図 熊川断層 東端付近ルートマップ

反射法地震探査の主な仕様

項目	内容				
測線名	①測線	②測線	③測線	④測線	⑤測線
波動種別	P波	P波	P波	P波	P波
測線長	1,322m	1,030m	1,188m	2,302m	2,003m
発信点間隔	2.5m	2.5m	2.5m	2.5m	2.5m
受信点間隔	5.0m	5.0m	5.0m	5.0m	5.0m



第 1.3.50 図 熊川断層 西端付近の調査位置図